

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20 年 1 2 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	0772800470		
法人名	株式会社 太郎		
事業所名	グループホーム ひよりの里		
所在地	〒961-806 福島県西白河郡西郷村小田倉大平103-7 (電話) 0248-25-6688		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	13.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	実費(約10,000円)
敷金	有(60,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	1 名	要介護 2	10 名
要介護 3	6 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 64 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ニューロクリニック、鈴木歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は那須連邦の山並みを望む緑豊かな自然環境の中の閑静な住宅街にある。また、公園が隣接しており恵まれた環境であり、建物も平屋で周りの住環境に溶け込んでいる。法人は設立時より「地域密着型サービス」を踏まえた基本方針を立てて、地域に根ざした事業所理念を基にサービスを提供している。運営推進会議等の設置でさらに地域との交流が深まる中で、事業所の納涼祭は地域の恒例行事として定着している。また、法人ではサービスの質の向上には職員の気づきが重要との認識から、職員から随時「改善・提案事項」を提出してもらい、法人・職員で実施可能な事項について検討し実践している。さらにポイント制を導入し、実践に至った項目には提案した職員にポイントを与え、ポイントが貯まると待遇に反映させている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期の方針については明文化し、その方針を利用者家族に説明し、意思確認書により同意を得ている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が日ごろのサービスを振り返りながら取り組み、全体的には法人と管理者で総括し質の向上に反映させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	2ヶ月に1度定期的開催し、内容も事業所の状況報告、地域の行事、防災訓練の実施、重度化・終末期の方針、職員の教育等多岐にわたっており充実してきている。運営推進会議が有効的に機能している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回利用者の状態を担当職員が詳しく手書きで報告している。また、ひよりだよりを発行し、生活の状況や行事等を知らせている。家族からの要望等には、意見箱を設置したり、電話での往診等の結果報告の際や面会時に把握に努めている。また、家族からの意見や要望は運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事には積極的に参加しており、地区のふれあいいきいきサロンには毎回4, 5名参加し交流している。また、ゴミ収集日には利用者が集積場を毎回清掃し、散歩の際には道路の空き缶やゴミ拾い等を行い、清掃活動をしている。地域住民から農産物の提供も多く、気軽に立ち寄ってくれる関係になっており、実践研修やボランティアも積極的に受け入れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念を作り上げている。また、各ユニットでその月の目標を掲げ実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで唱和し、事務所に掲示し常に理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の行事には積極的に参加している。利用者がゴミ収集日に毎回ゴミ集積所の清掃をしているので町内会費は免除となっている。また地区のふれあいいきいきサロンには毎回4、5名参加し交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解しており、日ごろのケアの見直しをしながら、職員一人ひとりが自己評価を行い、毎回、評価結果を全員で話し合い、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では委員から様々な意見や提案があり、地域との交流が増え、地域から理解と協力が得られており、地域に根ざした事業所となってきている。また外部評価の結果についても報告しサービスの質の向上に活かしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者の状況を担当職員が詳細に手書きで作成し、ひよりだよりと共に送付している。医療機関の受診結果、金銭出納帳のコピー、領収書等を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催によって家族からの意見の把握が容易になってきている。さらに職員は面会時には家族からささいなことでも話してもらえるような雰囲気作りをして把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人や管理者は職員の異動が利用者にも与える影響については十分認識しており、職員が退職に至らないよう取り組んでいる。やむをえない異動については利用者へ十分説明し対応している。ここ1年、職員の異動はない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には段階に応じて参加しており、研修終了後には報告書提出を義務づけ、伝達研修を行っている。内部研修として働きながらのトレーニングを実施している、また、資格取得者には待遇に反映させる体制になっており、法人として優良職員の表彰制度もあり、職員の励みとなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会を通して交流している。また県南地区協議会の研修には職員の勤務体制に配慮しながら毎回4、5名参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできること、得意なことを把握し利用者から料理や風習等を教えてもらいながら職員と一緒にいる。日々の生活では職員だけで行うことなく、みんなでやることを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で一人ひとりの思い、希望、意向を把握するために今日の発見（良かったこと、驚いたこと、希望、気づき）を毎日記録し、全職員が共有するとともに利用者本位の支援をするために役立っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を踏まえた介護計画を作成している。毎月のケア会議では日ごとの関わりで把握したことを基本に全職員で検討し、個別の具体的な計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画作成している	期間に応じた見直しを行っており、利用者の状態変化に対しては、本人・家族・関係者が話し合い、現状に即した介護計画を作成をしている。生活の質を向上させ、生き甲斐をもてるよう自立支援に添った目標の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月1回の往診があり、体調変化にも随時対応できる体制となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。利用者、家族が希望するかかりつけ医には家族が同行し受診しており、受診後は情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関との連携をもとに重度化や終末期に対する事業所としての方針を定めており、利用者・家族に説明し同意書により家族の意見を確認している。なお、現在は重度化の利用者はいない。		事業所として重度化や終末期の方針を作成し、ターミナルケアの実施についての体制が整備されているので、全職員で方針の共有を図られることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の誇りや羞恥心に留意し日頃の言動や対応について配慮している。また、利用者の記録の保管、使用、廃棄などについても注意し、個人情報の取り扱いも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前と午後の散歩、買い物、朝寝坊など利用者一人ひとりの生活リズムやその日の希望を尊重するとともに、閉じこもりがちになる方には屋外でのお茶への参加など声かけし気分転換できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2日に1度の食材購入には必ず利用者2、3名が同行しており、食事の準備、盛り付け、配膳等は職員と一緒にしている。また、職員も一緒に食卓を囲み、その日の味付けや季節の食材などについて話し合いながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制となっており、毎日入浴している利用者もいる。希望の時間に入浴でき、季節毎に菖蒲湯、ゆず湯なども取り入れ入浴を楽しむことができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	現在までの生活経験を活かし、趣味(短歌、踊り、絵画、刺繍、縫い物、野菜・草花作り等)や特技(魚さばき、包丁研ぎ等)を継続できるよう支援している。また、掃除、洗濯、洗濯物たたみ、カーテン引きなど利用者一人ひとりに応じた役割の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気の良い日は買物や午前と午後に近くの公園まで散歩したり、野菜や草花づくりをするなど個人の希望に添いながら事業所の中だけで過ごすことのないよう支援している。季節の花見、紅葉狩りやドライブ等を企画し実行している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、見守りやさり気ない声かけ等に対応しており、外出者には職員と一緒にいて行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策は消防署職員の指導を受け、避難訓練(救急処置、心肺蘇生法)など実施しており、災害に備えた地域の協力を得られる体制となっているが、災害時の飲料水、食料品などが備蓄されていない。	○	今後あらゆる場面を想定しての災害訓練を定期的実施され、さらに災害に備えた飲料水、利用者の状況に応じた食料品などの備蓄をされることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成したものを基本にして職員が作成している。食事の摂取量は毎食記録するとともに、利用者ごとに十分な水分をとれるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植木が置かれ、ホールの一角に畳の空間があり、自由にゆったり過ごせるようになっている。テーブルには季節の野の花が飾られ、壁面には行事の写真や利用者の作品、拡大された広報誌があり、生活感、季節感を取り入れた工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活できるように使い慣れたテレビ、筆筒、炬燵、寝具等自由に持ち込んで生活している。家族からの手紙や写真などを貼り生活を楽しんでいることがうかがえる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ひよりの里

記入担当者名 大友 一代

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。